

対人援助実践のリポートを企図した取り組みとそれの省察

—学会企画ワークショップという実践報告をふりかえって—

Considering a reboot of human services practice

Practical report of three academic conference planning workshops

○二階堂哲¹, 小幡知史², 渡辺修宏³, 長谷川(錦織)福子², 神山努⁴

Nikaido Satoshi, Obata Satoshi, Watanabe Nobuhiro, Hasegawa Fukuko, and Kamiyama Tsutomu

茨城県立美浦特別支援学校¹, 障がい児通所支援事業所樹の子クラブ², 国際医療福祉大学³, 横浜国立大学教育学部⁴

Mitho Special Education School, KINOKO club, International University of Health and Welfare,

Ibaraki university, and YOKOHAMA National University

Key words: 対人援助実践, 企画ワークショップ, リポート

目的

「時々、対人援助(実践・臨床)に疲れていませんか? 行き詰まっていますか? 何かが見えなくなっていますか? やる気が失われつつありませんか?」

我々が企画したワークショップの冒頭で述べたこれらは、対人援助者への投げかけであった。無論、YES か NO を問うたのではなく、そのような時があるのならばぜひそれを「脱却」することを目指そうという呼び掛けであった。「脱却」、我々はそれをリポートと言い換えた。リポート(再起動)とはこの場合、「明日からまた、気持ちよく、楽しく、効果的な援助実践に携わること」を意味する。リポートの手続きは人によって異なり、万人に共通する手続きを語るのとは容易ではない。しかし比較的簡便かつ多くの方々が適用可能な方法の1つは、読書や映画鑑賞であろう。しかるべき本を読み、しかるべき振り返りに浸る。しかるべき映像に視聴し、しかるべき気づきを得る。おそらく、全ての対人援助実践に携わる方々が着手できる手続きとなると考えられる。

上述の視座に基づいて、私たちはこれまで過去2年(2020・2021年)、述べ3回に渡って対人援助学会企画ワークショップを実施し、その具体的実践を試みた。本稿ではその企画ワークショップ、「対人援助実践をリポートするこの一冊」、「対人援助実践をリポートするさらなる一冊」、「対人援助実践をリポートするこの一本」の内容を振り返ると同時に、対人援助職者がリポートを図るための今後の展開について考察する。

方法

本稿は、2020・2021年の対人援助学会年次大会企画ワークショップ3本の内容を総括しながら、対人援助実践をリポートするために必要な視点、方向性を考察した。

結果

2020年および2021年における対人援助学会実施された3本の企画ワークショップで紹介された書籍および映画は表1の通りであった(表1)。

表1 3つの企画ワークショップで紹介された文献および映画

プレゼンター	対人援助実践リポート するこの一冊(2020)	対人援助実践リポート するさらなる一冊(2021)	対人援助実践リポート するこの一本(2021)
二階堂	はじめての応用行動分析 日本語版 第2版(2004)、自由への旅「マインドフルネス瞑想」実践指南(2016)	言語と行動の心理学 行動分析学をまなぶ(2020)	生きる(1952)、プリズン・サークル(2000)
小幡	行動分析家の倫理—責任ある実践へのガイドライン—(2015)、発達障害に関する10の倫理的課題(1998)、支援者が成長するための50の原則—あなたの心と力を築く物語—(2006)	療育とは何か(1990) 自閉症の世界—多様性で満ちた内面の真実—(2017)	ベイフォワード— possibleの王国—(2000)
渡辺	真理の探究(2016)、科学するブッダ(2013)、When 完璧なタイミングを科学する(2018)、医療現場の行動経済学(2018)、心を整える(2014)	目に見える世界はどれくらい? 物理学の思考法(2017) できる研究者の論文生産術(2015)	グリーンブック(2018)、キンキーブーツ(2005)、森精らしきかな人生(2016)
長谷川(錦織)		人生行動科学としての思春期学(2020)、ダリとの再会(1982)	くれよんしんちゃん嵐を呼ぶ モーレツ! 大人商国の逆襲(2001)、誰も知らない(2004)
神山		真のダイバーシティをめざして(2017)、GIANT KILLING(2007~)	レナードの朝(1991)

考察

3本のワークショップ、5人のプレゼンターによって紹介された文献と映像にはいくつかの共通点というべき特徴がみられた。すなわち、対人援助とは? 障害とは? 人生とは? という対人援助職者が直面する様々な課題に内在する、ある種の「真理」への探究という特徴である。また、それぞれのコンテンツがなぜリポートにつながったのかというそれぞれのプレゼンターの考察が、他の者(参加者含む)に一定の気づきや発見を促し、個を超えた集団的、普遍的なリポートの可能性が示唆された。また、このような取り組みにおける更なる活動の展開が期待された。

今後、これらのコンテンツが彼らの対人援助実践をどのようにリポートしたのかについての検証が必要となろう。